

エイト・オリンピックス・プロジェクト

# 格闘技界のホープが語る 東京五輪への思い

盛岡広域スポーツコミッションが推進する、オリンピック選手の輩出を目指す「エイト・オリンピックス・プロジェクト」。今回は日本トップクラスの実績を誇る2大格闘家の今に迫る。

江南義塾盛岡高校時代、インターハイ制覇など高校5冠を達成したボクシングの梅村錬。同校卒業後、昨年から大学ボクシングの名門である拓殖大学に進学し、力を磨いている。

拓殖大学での生活について、次のように充実感を口にしている。

「先輩方は強い選手たちばかり。軽量級の方たちから色々な技術を学べますし、重量級の先輩たちとの実戦練習で、当たりの強さなどを体感できます。色々な面で自分の身になっていて、とてもよい環境にいます」

しかし、大学1年目の昨年は、希望郷いわて国体の成年男子ミドル級で高橋諒（愛媛・愛媛県競技力向上対策本部）に敗戦。「県民の皆さんにはいつも応援してもらっているのに2位という結果で申し訳なかったです。課題がたくさんあるので、今

# 梅村錬

BOXING

Ren Unemura

梅村錬 [うめむら・れん]

1997年6月2日生まれ、177cm75kg。盛岡市出身で、現在は拓殖大学2年。江南義塾盛岡高校時代に高校総体、国体とともに連覇するなど5冠を達成。2016年アジア大学選手権で銅メダルを獲得。全日本ボクシング選手権ミドル級、希望郷いわて国体の成年ミドル級でともに2位。



全国の猛者が集う拓殖大学という環境で鍛錬を積み、さらなる飛躍を誓う

謝を強調する。そして自身の現状については「東京五輪で金メダルをとるには、こんな練習ではだめ。よい環境にいるのだから、もっと自分を追い込まないといけない」と危機感を語る。2017年、課題を克服してのさらなる飛躍を楽しみたい。

2020年東京五輪で新種目となることで、より注目を集めている競技が空手だ。そして、昨年の希望郷いわて国体で、昇勢初となる空手での優勝を果たしたのが成年男子重量級の石塚将也（盛岡市役所）だった。

国体について、石塚は嬉しさに以上に、安堵の気持ちが強かったと振り返る。「大学4年生の時、競技的には大スランプで引退も考えていました。その中で盛岡市役所のスポーツ枠採用が決まり、競技を続けることができた。それだけに結果を残したいと



昨年の東アジア大会では圧倒的なスコアで優勝。世界選手権の団体代表にも選ばれた

いう強い思いがありました」  
また、昨年は石塚にとつて、帝京大学卒業からの社会人1年目ということで、大きな環境の変化となった。当然、仕事との両立もあって、学生時代に比べると練習に打ち込める時間が少なくなった面もある。しかし、盛岡市役所の職員という社会人と

なったからこそそのポジティブな影響も色々あった。  
「練習環境が変わったことで、今まで環境に甘えていた部分もあったと感じ、より考えて工夫するようになりました。それは仕事を通して、色々な人と接するようになったからこそ。空手だけでない色々な世界を経験することが競技力の向上につながっていると思います。東京五輪に向けて、より恵まれた練習環境に配慮いただき、この春から東京事務所勤務となりました。」

東京五輪については、「2020年を目指せる環境にいるのは幸せです。誰しもがいただけるチャンスではないので、思いっきりやるだけです。ただ、まずは目の前の試合に全力で取り組み、その先に五輪がある意識です」と語る。

「相手にポイントを取られない。ディフェンス力をまずは大事にしていく」と自身の目指す戦い方を述べる石塚だが、一方でさらなる飛躍へ攻撃力の強化も必要と考える。  
「課題としているのは、攻撃で技の精度を上げるというより、組み立て方です。ここ一番のピンチや追いかける場面の時、圧倒的な攻撃力がないといけない。格上に勝つには守っていても勝てないです」

そして最後に2017年の残りをどんな日々としたいのか意気込みを語ってくれている。  
「仕事をきっちりやりながら、競技力をしっかりとつける。結果にもこだわっていきますが、たとえ負けてもそのあとに大きくステップアップできるように力を蓄えていきたいです」



# 石塚将也

Masaya Ishizuka

KARATE

石塚将也 [いしづか・まさや]

1993年9月24日生まれ、174cm81kg。北海道出身で現在は盛岡市役所東京事務所に勤務。花咲徳栄高校から帝京大学に進み、2014年第58回全日本学生空手道選手権・個人組手優勝、2016年の東アジア大会・個人組手84kg級、希望郷いわて国体の成年組手重量級で優勝などの実績を誇る。